

駅伝監督 MESSAGE



両角 速 (モロズミ ハヤシ)

体育学部競技スポーツ学科 教授

陸上競技部 駅伝監督

1966 年 7 月 5 日生まれ

1985 年 3 月 東海大学第三高等学校^(※) 卒

1989 年 3 月 東海大学体育学部卒

※現在の校名は「東海大学付属諏訪高等学校」

第 98 回箱根駅伝を迎えるにあたり、東海大学を応援してくださる皆さまに、心より感謝申し上げます。また、日ごろからご支援をいただいております多くの皆さまにこの場をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。

さて、今季は 10 月の出雲全日本大学選抜駅伝競走で 9 位、11 月の全日本大学駅伝対校選手権大会では 12 位と苦しい戦いが続いております。一昨年度に“黄金世代”と称された館澤亨次（体育学部卒・DeNA アスレティックスエリート）や阪口竜平（同・SG ホールディングス）らが、昨年度は塩澤稀夕（同、富士通）や名取燎太（同・コニカミノルタ）らが卒業し、チームは戦力を一新しました。本間敬大駅伝主将（体育学部 4 年次生）や山口順平主務（文化社会学部 4 年次生）ら最上級生が中心となって、今夏には例年以上に距離を踏み、箱根駅伝に向けたスタミナ強化に取り組んできました。その成果もあり、神菌竜馬（健康学部 2 年次生）や溝口仁（体育学部 2 年次生）ら新戦力の台頭も見られています。その一方で、石原翔太郎（同）や松尾昂来（同）らを故障で欠いた影響もあり、皆さまのご期待に沿う結果を残すことができませんでした。

今年度の集大成となる箱根駅伝では総合 6 位以上が目標です。来年度に向けて、総合 10 位までに与えられるシード権は何としても死守したいと選手たちは必死に努力を続けています。今季の結果もあり各メディアにおける東海大学への注目度は決して高くありません。しかし、劣勢に立たされているときほど、学園関係者の皆さまや卒業生の応援が何より彼らの力になります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今大会を主催する関東学生陸上競技連盟から「沿道でのいかなる活動も自粛」するよう発表されています。選手たちの力走を直接見ていただけないのは残念ではありますが、画面越しにぜひ温かいご声援をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走 沿道での応援自粛のお願い

今年度も、新型コロナウイルス感染症予防を最優先するため、大会事務局より沿道などすべてのコース上で応援自粛が要請されています。ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本学では「東海大学駅伝応援サイト」を開設しています。監督・選手のインタビュー等、充実したコンテンツとなっておりますので、ぜひご覧ください。



詳細はwebサイトをご参照ください

※URLが変わりました！

<https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/club/daigakuekiden/>

今年度の学生三大駅伝

■第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走

総合 9 位でした。今年度は主力選手が大幅に入れ替わり万全とは言えない状況でしたが、2 区の溝口仁選手は総合順位を 2 つ引き上げ、5 区の神菌竜馬選手が区間 5 位と健闘、今後のレースでも期待できる内容を見せてくれました。



■第53回全日本大学駅伝対校選手権大会

1 区で区間 15 位と苦しいスタートでしたが、2 区の松崎咲人選手、4 区の川上勇士選手らの力走で差を縮め、7 区の主将本間敬大選手がシード圏内の 8 位に 35 秒差まで迫り、最後必死に前を追いましたが、総合 12 位となりました。



第 98 回 東京箱根間往復大学駅伝競走

箱根駅伝

【東海大学応援ガイドブック】



2022 年 1 月 2 日 (日) ・ 3 日 (月)
8 : 00 START

 **東海大学**

Think Ahead, Act for Humanity

9 年連続 49 回目の 箱根路への挑戦！！

陸上競技部 STAFF

■陸上部部長：高野 進

■駅伝監督：両角 速

■スカウト兼コーチ：瀧川 大地

■アドバイザー：丹治 史弥

■駅伝主将：本間 敬大

■陸上部監督：高野 進

■駅伝ヘッドコーチ：西出 仁明

■駅伝コーチ：小池 翔太

■駅伝主務：山口 順平



■本学の箱根駅伝の記録

大会回数	年	総合順位	大会回数	年	総合順位
第49回	1973	14位	第73回	1997	8位
第50回	1974	9位	第74回	1998	14位
第51回	1975	10位	第75回	1999	5位
第52回	1976	13位	第76回	2000	7位
第53回	1977	6位	第77回	2001	途中棄権
第54回	1978	10位	第78回	2002	14位
第55回	1979	11位	第79回	2003	7位
第56回	1980	10位	第80回	2004	2位
第57回	1981	12位	第81回	2005	6位 (往路優勝)
第58回	1982	11位	第82回	2006	6位
第59回	1983	5位	第83回	2007	3位
第60回	1984	6位	第84回	2008	途中棄権
第61回	1985	13位	第85回	2009	18位
第62回	1986	7位	第86回	2010	12位
第63回	1987	6位	第87回	2011	4位
第64回	1988	8位	第88回	2012	12位
第65回	1989	8位	第90回	2014	13位
第66回	1990	8位	第91回	2015	6位
第67回	1991	8位	第92回	2016	5位
第68回	1992	10位	第93回	2017	10位
第69回	1993	14位	第94回	2018	5位
第70回	1994	5位	第95回	2019	優勝
第71回	1995	8位	第96回	2020	2位 (復路優勝)
第72回	1996	4位	第97回	2021	5位

【過去最高順位】総合：優勝、往路：優勝、復路：優勝

東海大学エントリー選手

①所属学部 ②出身高校 ③5,000m自己ベスト ④10,000m自己ベスト ⑤ハーフマラソン自己ベスト



いちむら ともき

市村 朋樹

①体育学部
②埼玉・埼玉米
③13.37.50
④28.03.37
⑤1:02.53

全日本駅伝を終えてから着実に調子も上がっています。往路でしっかりと結果を残し、チームの上位進出に貢献します。



ながた しゅんすけ

長田 駿佑 駅伝主将

①体育学部
②北海道・東海大札幌
③13.54.35
④31.55.62
⑤1:03.19

出雲駅伝・全日本駅伝は故障で欠場しましたが、地道な走り込みでスタミナもつきました。シード権獲得につながる走り为目标です。



ほんま けいた

本間 敬大 駅伝主将

①体育学部
②長野・佐久長聖
③13.53.33
④29.14.44
⑤1:02.59

出雲駅伝・全日本駅伝とここまで悔しい結果が続いていますが、集大成となる箱根駅伝ではチームに勢いをもたらし走りをします。



よしとみ ゆうた

吉富 裕太

①体育学部
②福岡・大牟田
③14.20.34
④28.49.83
⑤1:05.12

4年目にして初めて箱根駅伝出場へのチャンスを手繰り寄せることができました。これまでの感謝の思いを持ってスタートラインに立ちます。



かなざわ ゆうま

金澤 有真

①政治経済学部
②宮城・仙台育英学園
③14.20.81
④28.48.76
⑤1:09.19

故障でリハビリの期間は長かったですが、精神的に成長できました。その成果を箱根駅伝でしっかり発揮します。



かわかみ ゆうじ

川上 勇士

①体育学部
②千葉・市立船橋
③14.01.68
④28.59.60
⑤1:07.40

前回大会は6区区間5位だったので、さらに上位を目指すべく練習を積んできました。残りの期間もしっかりと調整して本番に臨みます。



すぎもと しょうた

杉本 将太

①体育学部
②千葉・東海大市原望洋
③14.04.77
④29.16.89
⑤1:11.37

1、2年次生のときは故障が続いたが、友人や両親、チームメートに支えてもらってきました。感謝と笑顔でテーマにレースに臨みます。



たけくら たくま

竹村 拓真

①情報理工学部
②秋田・秋田工業
③13.58.29
④28.54.56
⑤1:03.28

昨年度初めて箱根駅伝に出場し、チームの代表としての自覚が芽生えました。悔しいレースが続いているので、箱根では結果を残します。



まつざき さきと

松崎 咲人

①体育学部
②長野・佐久長聖
③14.11.48
④28.39.46
⑤1:02.11

他校のエースと渡り合い、チームを流れるに乗せる走りが目標です。どの区間を任されてもしっかりと走れるよう準備していきます。



いりた ゆうき

入田 優希

①体育学部
②熊本・九州学院
③14.04.17
④29.02.30
⑤1:05.30

全日本駅伝では、初めての大学駅伝出場だったので緊張してしまいました。箱根駅伝ではリラックスして臨みます。

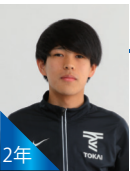


かみそ の りょうま

神薗 竜馬

①健康学部
②鹿児島・鹿児島実業
③14.01.45
④28.42.61
⑤1:05.28

今年度は出雲駅伝、全日本駅伝に初めて出場し、貴重な経験を積めました。初めての箱根駅伝でも攻めの走りをしてチームに貢献します。



みぞぐち じん

溝口 仁

①体育学部
②長崎・創成館
③13.49.60
④28.24.48
⑤ —

今年度に中距離から転向し、夏合宿でもしっかりと走り込むことができました。自信のあるラストスパートを武器に勝負します。



かじたに ゆうと

梶谷 優斗

①体育学部
②滋賀・滋賀学園
③14.05.38
④28.27.77
⑤ —

自分の持ち味である粘り強さとスピード持久力は距離の長い箱根駅伝で武器になります。区間上位を目指してコンディションを整えます。



こし はると

越 陽汰

①体育学部
②長野・佐久長聖
③13.53.77
④28.48.37
⑤ —

日ごろの生活から気を抜くことなく、練習にも高い意識を持って箱根に臨みます。先輩たちとともにチームの上位進出に貢献します。



みずの たつゆき

水野 龍志

①体育学部
②宮崎・小林
③14.08.01
④30.05.07
⑤ —

高校時代からずっと箱根駅伝出場は大きな目標でした。自信のあるスピードを武器に自分の力を最大限発揮します。



よしだ ひびき

吉田 響

①体育学部
②静岡・東海大静岡翔洋
③14.01.52
④29.42.42
⑤ —

上り坂には自信があり、1年間しっかりとトレーニングを積んできました。緊張よりも出場できる楽しさを感じながらレースに臨みます。



やまぐち じゅんぺい

山口 順平 駅伝主将

①文化社会学部
②三重・伊賀白鳳

全日本大学駅伝ではシード権を逃してしまったので、箱根駅伝では万全の状態ですり出し、10位以内に入って後輩たちに伝統をつなぎたいです。

■中長距離ブロック 歴代PB上位10傑

1,500m 1.5km	5,000m 5km
3.38.94 飯澤 千翔	13.23.57 佐藤 悠基
3.40.49 館澤 亨次	13.29.61 阪口 竜平
3.42.08 関 颯人	13.30.98 石原翔太郎
3.42.20 木村 理来	13.33.44 塩澤 稀夕
3.42.24 溝口 仁	13.34.85 村澤 明伸
3.42.58 佐藤 大樹	13.35.81 関 颯人
3.43.63 荒井 七海	13.37.50 市村 朋樹
3.43.63 阪口 竜平	13.37.72 伊達 秀晃
3.44.17 林 竜之介	13.38.58 鬼塚 翔太
3.44.38 國行 麗生	13.46.10 早川 翼

10,000m 10km	ハーフマラソン
27.50.59 村澤 明伸	1:02.03 鬼塚 翔太
27.51.65 佐藤 悠基	1:02.07 郡司 陽大
28.08.83 市村 朋樹	1:02.08 伊達 秀晃
28.05.91 石原翔太郎	1:02.11 松崎 咲人
28.08.83 塩澤 稀夕	1:02.14 中井 祥太
28.10.51 名取 燎太	1:02.16 白吉 凌
28.17.52 鬼塚 翔太	1:02.17 松尾淳之介
28.21.32 伊達 秀晃	1:02.23 川端 千都
28.21.80 松尾 昂来	1:02.28 中島 怜利
28.23.37 関 颯人	1:02.30 前川 雄

箱根駅伝コース紹介

※写真は前回大会の走者

■1区【大手町→鶴見（21.3km）】

コースは全体的にフラットでスピードランナーを起用するチームが多い。83回大会の佐藤悠基選手による1時間01分06秒が現在も区間記録。50回大会の宮田将美選手、81回大会の丸山敬三選手も区間賞を獲得。

■2区【鶴見→戸塚（23.1km）】

23.1kmと、箱根駅伝でも最長距離の区間で、各大学のエースが集まることから「花の2区」と呼ばれている。87回大会で村澤明伸選手が1時間06分52秒で区間賞を獲得している。

■3区【戸塚→平塚（21.4km）】

往路の中盤である3区は、はじめの1km以降は長い下りが続くスピードコースで、近年は2区とセットでエースが集う重要区間でもある。82回大会では佐藤悠基選手、97回大会では石原翔太郎選手が区間賞を獲得している。

■4区【平塚→小田原（20.9km）】

往路の順位を左右することが多く、準エース級の主力選手を投入する大学が増えている。平地区間では一番距離が短いが、気温の変化が大きく細かなアップダウンが続く難コースでもある。

■5区【小田原→箱根（20.8km）】

山上りと形容され、箱根駅伝の代名詞ともいえる区間95回大会で西田壮志選手が1時間11分18秒で区間新記録をマークしたが直後に更新された。75・76回大会の柴田真一選手、79回大会の中井祥太選手が区間賞を獲得。



■6区【箱根→小田原（20.8km）】

スタートから約4km上った後、箱根湯本駅まで一気に下っていく。中継所までの残り約3kmは平地だが、上り坂に感じるほど脚への負担が大きい。96回大会では館澤亨次選手が区間新記録をマークした。

■7区【小田原→平塚（21.3km）】

スタート直後は平坦で、9km過ぎからアップダウンが続く。全10区間の中で一番気温差が激しいのも特徴。80回大会の小出徹選手と84回大会の佐藤悠基選手、93回大会の石橋安孝選手が区間賞を獲得している。

■8区【平塚→戸塚（21.4km）】

約500m続く遊行寺の坂は、急な上り坂で脱水症状などのアクシデントへの注意も必要。95回大会では小松陽平選手が1時間03分49秒で22年ぶりに区間新記録を樹立して金栗四三杯を獲得した。

■9区【戸塚→鶴見（23.1km）】

「花の2区」を逆走するコースで、2区同様に最長距離区間。レース終盤に差し掛かるため、各大学ともに復路のエースを投入し、優勝やシード権争いが繰り広げられる。

■10区【鶴見→大手町（23.0km）】

最終10区は、フラットで走りやすいコース。75回大会以降に距離が延びたため、準エース級の選手が集まる区間となった。気温上昇やアンカーの重圧からアクシデントが起こることが多い。



区間	コース・距離	区間記録			東海大学記録		
1区	大手町 → 鶴 見 （ 21.3km ）	1.01.06	佐 藤 悠 基	（東海大学/2007年/第83回）	1.01.06	佐 藤 悠 基	（2007年/第83回）
2区	鶴 見 → 戸 塚 （ 23.1km ）	1.05.49	Y.ヴィンセント	（東京国際大学/2021年/第97回）	1.06.52	村 澤 明 伸	（2011年/第87回）
3区	戸 塚 → 平 塚 （ 21.4km ）	0.59.25	Y.ヴィンセント	（東京国際大学/2020年/第96回）	1.02.12	佐 藤 悠 基	（2006年/第82回）
4区	平 塚 → 小 田 原 （ 20.9km ）	1.00.30	吉 田 祐 也	（青山学院大学/2020年/第96回）	1.01.37	名 取 燎 太	（2020年/第96回）
5区	小 田 原 → 箱 根 （ 20.8km ）	1.10.25	宮 下 隼 人	（東洋大学/2020年/第96回）	1.11.18	西 田 壮 志	（2019年/第95回）
往路	大手町 → 箱 根 （107.5km）	5.21.16	青山学院大学	（2020年/第96回大会）	5.24.38	東 海 大 学	（2020年/第96回大会）
6区	箱 根 → 小 田 原 （ 20.8km ）	0.57.17	館 澤 亨 次	（東海大学/2020年/第96回）	0.57.17	館 澤 亨 次	（2020年/第96回）
7区	小 田 原 → 平 塚 （ 21.3km ）	1.01.40	阿 部 弘 輝	（明治大学/2020年/第96回）	1.02.35	佐 藤 悠 基	（2008年/第84回）
8区	平 塚 → 戸 塚 （ 21.4km ）	1.03.49	小 松 陽 平	（東海大学/2019年/第95回）	1.03.49	小 松 陽 平	（2019年/第95回）
9区	戸 塚 → 鶴 見 （ 23.1km ）	1.08.01	篠 藤 淳	（中央学院大学/2008年/第84回）	1.09.36	湊 谷 春 紀	（2019年/第95回）
10区	鶴 見 → 大 手 町 （ 23.0km ）	1.08.40	嶋 津 雄 大	（創価大学/2020年/第96回）	1.09.08	郡 司 陽 大	（2020年/第96回）
復路	箱 根 → 大 手 町 （109.6km）	5.23.47	東 海 大 学	（2020年/第96回大会）	5.23.47	東 海 大 学	（2020年/第96回大会）
総合	東 京 箱 根 間 往 復 （217.1km）	10.45.23	青山学院大学	（2020年/第96回大会）	10.48.25	東 海 大 学	（2020年/第96回大会）